

# 第1回 開かれた学校づくり協議会 報告

## 1 出席者

田中会長、山谷副会長、藤間、佐井、高木、藤原、森野（教育委員会）

## 2 令和8年度の学校経営計画について

- ・目指す学校像に「みんなでつくる」という文言を加えました。保護者、地域、子どもたちと共に学校を創り上げていきたいという思いが込められています。
- ・目指す教師像に「誰もが安心できる」を追加しました。昨年に引き続き、心理的安全性の確保やユニバーサルデザインの考え方を取り入れています。また、失敗を恐れずに、挑戦できる風土を大切にしています。
- ・新たな試みとして、月曜・金曜の5・6時間目を40分授業に設定しています。授業の理解度について質問がありましたが、年間の学習時間や内容は変わらないように調整しています。
- ・新しい学習者用コンピュータとAIドリル「ミライシード」が導入されました。これまでの協働的な学びに加え、個別最適な学びにも力を入れていきます。

## 3 開かれた学校づくり協議会の機能について

本協議会は、文部科学省が推進する「学校運営協議会（コミュニティスクール）」と「地域学校協働本部」の2つの機能を併せ持つ、武蔵野市ならではの仕組みです。

そのため、学校運営協議会として基本方針の承認や意見出しを行う機能と、地域学校協働本部として地域コーディネーターを中心に実践活動を行う機能の両方を担っています。

今回、学校経営計画書について説明を受け、協議会として承認したことも、この重要な機能の一環となります。

## 4 スタートカリキュラムについて

昨年度から継続しているテーマであり、幼児教育から小学校へのスムーズな移行を目的としています。その一環として、委員による1年生の授業見学が実施されました。発表や聞く姿勢のパターンを提示して集団行動の基礎を作っている点や、子どもたちが幼児教育を通じて既に良い態度を身につけてきている点を見ることができました。

また、幼児教育で時間をかけて培われたプロセス（多数決によらない合意形成など）と、学校ならではの分かりやすいルールの方のよさについて意見が出されました。

さらに、「1年生を迎える会」を見学した委員から、6年生の頼もしい姿と、1年生への「失敗してもいいんだよ」という温かいメッセージが紹介されました。

## 5 今後の予定について

今年度は全8回の会議を予定しています。

スタートカリキュラムについては、5月に意見交換を行い、7月にアイデア出し、8月に素案検討を経て、10月に最終的な意見書をまとめるスケジュールを確認しました。

今年度の新たな取り組みとして、6月に子どもたち（4～6年生の計画委員18名）との交流会を実施いたします。小グループに分かれて直接意見を聞き、7月に振り返りを行った上で、10月に教育活動改善に向けた提案書を作成する予定です。